



一人一人に寄り添う気持ち

校長 西尾 晃明

2017年 平成29年 酉年。新年のお慶びを申し上げます。

第3学期の始業式で、私は「相手を認めるということが大切です。相手を理解することができなくても、相手を認めて共に生きるという姿勢をもち続けることが大切な時代になりました。理解することができなくても共に生きるにはどうしたらよいのか、身近なところから考えていきましょう。」という話をしました。

今、世界で起きているテロや内紛の状況を見ると、共に生きるということはなんと難しい事かと考えさせられます。そんな中、勇気づけられる言葉をニュースで見ましたので紹介します。

『人は互いにすべてを理解し合うことはできません。それでも私たちは “人の痛みや痛みを考え、人を思いやること” を怠ったことはありません。自分にできること、相手ができないこと、互いが互いを思いやり、共に支え合いながら困難を乗り越えてきました。』

南三陸町成人式で、新成人代表浅野祐介さんの
奮いの言葉から抜粋 (BuzzFeed japan 1/9配信)
南三陸町は2011.3.11.東日本大震災で大津波を
受け甚大な被害を受ける。そのときの中学2年生が
今年の成人。

さて、去る1月17日火曜日に、本校では研究発表会を行いました。調布市教育委員会研究推進校の指定を受けて平成26・27年度と進めてきた研究の発表です。

研究のテーマは「ユニバーサルデザイン、コミュニケーション、ICTの手法を通じた授業の工夫・改善」でした。私の考えはこうです。

1日の学校生活の約7割を授業の時間が占めています。この時間が楽しみであることが、生徒にも教員にも必要です。そして、それぞれの授業では個性あふれる生徒たちが様々な支援を教員に求めているのです。

つまり我々教員は、六中の生徒たちを十把一絡げにとらえて授業をするのではなく、一人一人に寄り添った授業を目指さなければなりません。そのための手立てを教員が身につけるための研究でした。人に寄り添う気持ちをもつことの大切さは、左の文章にも通じるところがあると思っています。

今回の研究の成果が上がったかどうかは、生徒たちが、「よくわかる授業だね。楽しいね。」と感じてくれるかどうかです。日々の努力の積み重ねが欠かせないことを肝に銘じて、今後も邁進してまいります。

本年も、本校の教育活動へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

1/26	都立高校推薦入試	2/8	調布市立中学校教育研究発表会 (午前授業)
1/27	校外学習第1学年	2/10	私立高校一般入試開始
2/5~7	スキー移動教室 第2学年	2/10	新入生保護者説明会

六中生の心

思いやりの心

やさしい心

感謝の心